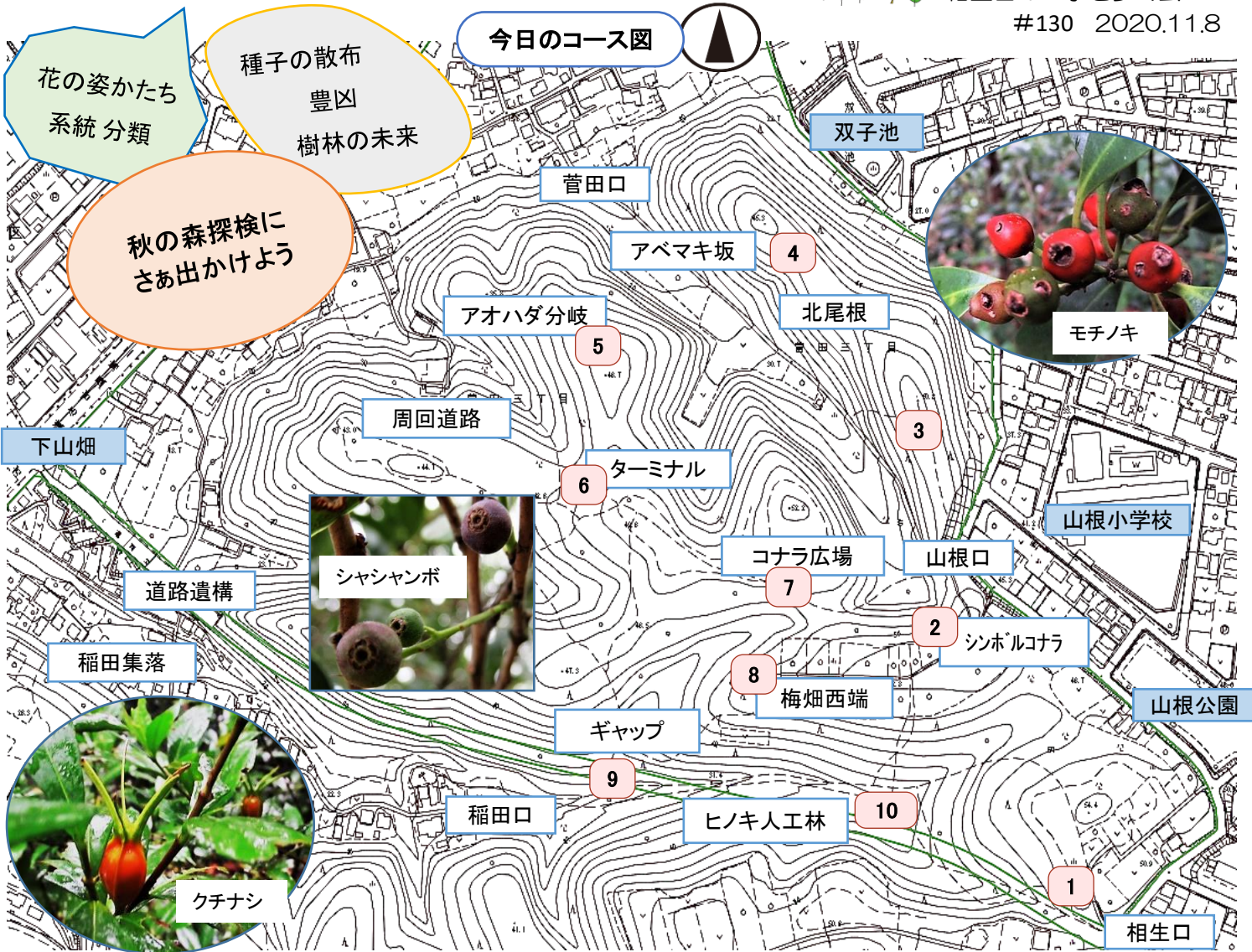


～木の実を見れば わかること～

相生山の四季を歩く会

#130 2020.11.8

今日のコース図



No	標準和名	漢字表記	科名	果実	花	特記 メモ	エリア
1	ヌルデ	白膠木	ウルシ	核果	花弁5	雌雄異株, 塩の木, 附子(五倍子):ヌルデシロアブラムシ	1,2,9
2	ヤマコウバシ	山香ばし	クスノキ	液果	花被片6	雌雄異株 ♀株のみ	3
3	イボタノキ	水蠟樹	モクセイ	核果	4裂筒状	ネズミモチと同属	3
4	モチノキ	繭の木	モチノキ	核果	花弁4	雌雄異株	4
5	ヒサカキ	姫榊	サカキ	液果	花弁5	葉腋につく	4,5,6
6	シャシャンボ	小小坊	ツツジ	液果	5裂筒状	類似比較 花序→果柄あり	3,4,7
7	ズミ	酢実	バラ	偽果	花弁5	ナシ(梨)状果	6
8	コバノガマズミ	小葉莢蒾	レンプクウ	核果	花冠5裂	今年は豊年(?) ※小葉と深山のmixあり	7
9	クチナシ	梔子	アカネ	肉質液果	花冠5~7裂	黄色色素	7
10	ムクノキ	棕	アサ	核果	♀筒状	雌雄異花	8
11	サウフタギ	沢蓋木	ハイキ	核果	花冠5裂	樹木灰はアルミ媒染, 果実の色は無関係	9
12	クサギ	臭木	シ	核果	花冠5裂	青色の染料	10



次回は 12月13日 (日) 9:30~
 コナラやタカノツメの華麗な色と匂いに包まれて
 ~黄葉に染み 憂い祓わん としの暮れ~

連絡先 (古川)
 tell/fax: 052-821-6463
 ケイタイ : 080-5124-6463
 e-mail : viva_forest@yahoo.co.jp
 ホームページ: ラブリーアース → 検索
 ブログ: 相生山からのメッセージ

他人まかせで大丈夫？

自分の足で動くことができない植物にとって、種子の散布は個体として移動できる唯一の機会です。その大事な機会を多くの樹木は動物に託しています。さくらんぼや野いちごは、種子の周りに多肉質の果肉をつけ、これを丸ごと動物に食べてもらい、消化されない種子だけが糞や吐き出しで排出されて散布されます。これを被食型（周食型）の動物散布と呼んでいます。どんぐりやくるみなどのナッツ類はこれとは異なり、種子そのものをリスや野ネズミなどの動物が冬や春の食料として地面下に貯蔵し、食べ残された種子が発芽します。これが貯蔵型（食べ残し型）の動物散布です。

被食型や貯蔵型の動物散布を行う植物の果実や種子は、動物たちを引きつける特徴をいろいろと持っています。被食型の果実は糖分や脂質などを多く含む果肉をつけるものが多く、サルナシやヤマボウシのように人も魅了する野生の果実もあります。これらの果実の多くは、熟してくると赤や黒の目だつ色に鮮やかに変身して、色が識別できる鳥やサルたちを引きつけます。地味な色の果実では、甘い香りを漂わせて鼻がきくタヌキなどの動物をおびき寄せるものもあります。貯蔵型のナッツ類は貯蔵がきき、栄養価が高く、運ぶ効率のよい大型の種子であることが特徴です。

では、動物に適応したこれらの種子は、本当に効率よく散布されているのでしょうか？ 実はそうとも限らないのです。例えば、赤や黒に色づくカスミザクラの果実はさくらんぼと同様にみずみずしい果実で、典型的な被食型の鳥散布の果実ですが、ヒヨドリなどの鳥によって食べられて樹冠外へ運ばれるもののほか、大半は樹冠下に果実のまま落ちてしまいます。落下した果実は、タヌキやテンなどの動物に食べられて、より遠くに散布されるものもありますが、多くの種子は野ネズミに食べられてしまいます。被食型はある特定の動物だけに散布されるものよりも、多くの動物がかかわっているものが多いようです。それに対し、貯蔵型のオニグルミ種子はリスとアカネズミだけがその大きくて堅い殻を持つ種子を貯蔵して散布しています。両動物ともにオニグルミ種子が大好物で真つ先に貯蔵しますが、そのために貯蔵後に回収されて食べられる確率も高く、残って発芽できる種子はほんのわずかな数なのです。



日本を代表する被食型の散布者の鳥ヒヨドリ

このように、実際は必ずしも植物に都合よく散布されているわけではないようですが、それでも樹木の多くが動物に依存しているのは、動物散布がやはり比較的効率がよいからなのかもしれません。

(林田光祐)